

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
 A：十分達成できている
 B：おおむね達成できている
 C：やや不十分である
 D：不十分である

学校名		伊万里市立牧島小学校	
1 前年度 評価結果の概要	・家庭学習の時間が、学年が上がるにつれて少なくなっている現状をふまえ、家庭学習の課題の充実や、ゲームや動画等の視聴時間に関するルール決めなど学校と家庭が連携をして改善していく必要がある。 ・次年度も、複式学級が1学級となる。教育課程編成、学力向上、教職員の働き方改革の視点をふまえ行事の精選を行い、教育活動を推進していく。 ・個人用タブレットの有効活用をさらに高めるため、職員研修を計画的に実施し、授業での活用やeライブラリー等のAIリテラシーでの活用、持ち帰りでの活用を通して学力向上に繋げていく。		
2 学校教育目標	学びのえがお いっぱい 牧島小 ～よく学び、心豊かで、たくましく生きる「牧島っ子」の育成～		
3 本年度の重点目標	【知】「種かな学力」の向上を果たす教育活動の推進 【徳】「豊かな心」を育む教育活動の推進 【体】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動の推進 【特色ある学校】「啓成中校区コミュニティスクール」の実施		
4 重点取組内容・成果指標			
(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ・授業の内容・方法・考え方を活用するための取り上げ方の工夫をすることにより、学びの深まり合いの充実を図っていき、ふり返りをもとに、児童一人一人の考え方を高めるための授業作り、教材研究を行う。 ・児童の意欲や学習の深まり、ふり返りに関しての意欲について調査を行い、分析・考察をすることで実感を明らかにする。 また、学力については、各学期におけるテストやOCTの結果、学習状況調査結果について分析・考察を行っていくことで児童の学力の向上を目指す。	○教職員間で学力向上に向けての方向性を定め、校内研修等により取組の促進を図る。 ○授業中は、自分の考えを書いたり話したり、友達の考えを聞いたりして最後まであきらめずに勉強に参加していますか。』の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を目指す。 ○宿題は家に帰ってすぐにいき、低(30分)、中(40分)高(60分)より多くしていますか。』の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を目指す。	・教職員間で学力向上に向けて共通理解、共通実践内容を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・教材研究に努め、思考し、表現する場を設定し、見方・考え方を働かせる授業を仕組む。 ・家庭への理解を呼びかけ、家庭学習の手引きや学習の様子を知らせ、宿題の徹底に努める。 ・各教科とのつながりを意識したカリキュラム・マネジメントを行い、表現する力を身に付ける。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	・「人権意識の向上に努めている」と回答した教師80%以上 ・「道徳の勉強したときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童80%以上 ・いじめのないよい学校と回答した児童が80%以上 ・子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気を感じられると回答した保護者80%以上 ・「地域のことを学習したり、学習を生活に役立てるために、一生けんめい勉強している。」と回答した児童80%以上	・「ほかにほかに」で人権の話をし、「ほかにほかに」を発行して保護者にも啓発する。 ・年に1回「ふれあい道徳参観」を実施する。 ・気になる児童や保護者と深く関わりながら、信頼関係の構築に努め、SCとSSWなど関係機関との連携等、積極的な支援を行う。 ・定期的なアンケート(児童・保護者)や教育相談の充実を図り、「いじめ」などの実態を把握し早急に取り組む。 ・人権・同和教育の授業づくりを中心とする校内研究を行う。 ・体験活動を通して、地域の方とのかかわり深める。 ・学校行事(運動会、感謝の会、駅伝大会など)の後に振り返り(キャリアパスポートなど)をおこなう。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●規則正しい生活(適度な睡眠時間の確保、適度な運動量の確保)を意識した生活をしていると自覚している児童90%以上 ●「健康に食事は大切」と回答している児童85%以上	・身体活動の時間(1時間以内)を目処に運動するよう全員で取り組む。 ・校時表の見直しを行い、放課後の時間を15分長くし教材研究・学級事務の時間を確保する。 ・会議の縮減、会議時間の短縮のために会議資料のペーパーレス化を進め、前日までに資料の確認ができるようにする。 ・月曜日から木曜日は、終業時刻から最長2時間以内(金曜日は就業時刻1時間以内を目処に運動するよう全員で取り組む。 ・校時表の見直しを行い、放課後の時間を15分長くし教材研究・学級事務の時間を確保する。 ・会議の縮減、会議時間の短縮のために会議資料のペーパーレス化を進め、前日までに資料の確認ができるようにする。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○教育活動の整理・合理化	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合20%以下 ○行事の内容、数の精選を行う。その際、時間的・内容的に、どこがどう改善されたかが職員全員に意識できるようにする。	・12月には4年生で「朝ごはんの大切さについて考えよう」の授業を行うことができた。年2回の栄養教諭との授業は今後も続けていきたい。 ・最終アンケートにおいても「健康に過ごすために食事は大切」と回答している児童が90%であるため、今後も児童への指導、職員間での情報交換等続けていきたい。
●特別支援教育の充実	○教員の指導力と意欲の向上	○特別支援を要した学級経営や生活指導、支援に取り組んだ教員70%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・個別的教育支援計画・指導計画の作成、ケース会議の開催、情報共有
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○ICTの活用	○ICTを活用した授業の取り組みの向上	○ICTを活用した授業を全体の80%以上 ○タブレットなどのICT機器を活用することができていると感じている児童80%以上	・定期的に研修や活用の提案を行い、教員全体が授業の中で取り組むような環境を作る。 ・児童のタブレット使用率を高める。 ・自宅でのタブレット利用を推進する。
○地域と連携した教育活動	○地域の中の学校づくり	○心づき部の「地域のことを学習したり、学習を生活に役立てるために、一生懸命勉強していますか。』の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合が80%以上を確認し、地域学習の実態を知る。	・地域連携会議を年間2回開催し、体験活動のねらい等を地域の方々と共有する。 ・各教科とのつながりを意識したカリキュラム・マネジメントを行い、表現する力を身に付ける。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育			
5 総合評価・ 次年度への展望	・家庭学習やメディアとの付き合い方について育友会教育講演会や学級活動等で啓発を行っているがあまり改善が見られなかった。家庭学習の充実・ゲームや動画等の視聴時間に関するルールを決めるなど、これからは学校と家庭が連携をして改善していきたい。 ・次年度は複式学級が解消されるため、教育課程編成・学力向上・教職員の働き方改革等をさらに見直し、これまでの成果を生かしながら課題解決に取り組んでいく。 ・今年度は朝の健康観察やリモート授業などにタブレットの活用を広めてきた。個人用タブレットの有効活用をさらに高めるため、職員研修を計画的に実施し、授業での活用やAIリテラシー等を使った持ち帰りでの活用を通して学力向上に努めていく。		

5 最終評価

達成度 (評価)	実施結果	学校関係者評価	
		評価	意見や提言
B	・授業中は、自分の考えを書いたり話したり、友達の考えを聞いたりして最後まであきらめずに勉強に参加している児童は、全体で81%だった。授業の中で、ICTを活用したり、学び合い活動が仕組まれた内容がしっかりと行われ、少人数のよさが反映されている。 ・宿題は家に帰ってすぐにいき、60分(5・6年生)より多くしている児童は、64%である。10月から今まで本を30冊以上借りている児童は、72%だった。県教委より宿題等の家庭学習の大切さ、市教委より家読の勧めと大切さを指導を受けているので、学校からの課題をしっかりと取り組むことの大切さを家庭の中で育むことの大切さを考えてもらうように啓発を続けていく。	B	・学校図書室に入る機会があり、子どもが興味を持つように装飾等工夫がなされていた。なぜ本の貸し出しが伸びないのかと不思議だった。学習の中でもっと知りたいと思うような進め方や図書の充実を図られたらどうだろうか。 ・学校の勉強は予習復習が大事だと思う。
A	・「人権意識の向上に努めている」と回答した教師85%以上だった。 ・「道徳の勉強したときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童88%以上だった。	A	・特記事項なし
B	・いじめのないよい学校と回答した児童が88%以上 ・子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気を感じられると回答した保護者は72%だったので、次年度は電話連絡や家庭訪問など、なお一層の細やかな対応をしていきたい。	C	・学校に相談しやすい雰囲気と感じられない保護者が3割近くいるというのは重く受け止め今後の学級づくりに活かしてほしい。
A	・「地域のことを学習したり、学習を生活に役立てるために、一生けんめい勉強している。」と回答した児童87%以上だった。 ・人権・同和教育の授業づくりを中心とする校内研究を計画的におこなった。	B	・運動会を地域の人と行う方向にもっていき「牧島家族」の意識を高めてほしい。
B	・持久力大会等の学校行事において、児童が楽しくスポーツに親しむ姿が見られた。スポーツタイムでも縦割り組で協力して取り組むことができていた。 ・規則正しい生活を意識した生活をしていると自覚している児童は84%となり、前年よりも1%上昇した。今後は家庭でも協力しながら規則正しい生活の促進を行ってきたい。	A	・連絡ノートに就寝時間の欄を設けられたり、子どもも早く寝ようというきっかけができていた。他にもいろいろと取り組まれているとありがたい。
A	・12月には4年生で「朝ごはんの大切さについて考えよう」の授業を行うことができた。年2回の栄養教諭との授業は今後も続けていきたい。 ・最終アンケートにおいても「健康に過ごすために食事は大切」と回答している児童が90%であるため、今後も児童への指導、職員間での情報交換等続けていきたい。	A	・「食」の大切さを伝えていただきありがとうございます。健康にも機嫌にもつながることを引き続き学んでほしい。
A	・校時表の見直しにより、放課後の時間に、教材研究や学級事務、部会話し合いの時間が確保できた。 ・1月までの時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合は11%となった。繁忙期の4月～6月までは残業時間が多くなるため業務改善を進めていく。 ・会議資料はペーパーレスで行うことができた。	B	・対外的な会議(学校運営協議会の場)はペーパーレス化されてはあまり議論が深まらない気がした。(11月)
B	・持久力大会は、児童の活躍する場面が増え、安全で天候に左右されない内容となった。運動会や集会に向けての練習時間を確保しつつ、進度によっては授業に振り替えるなど柔軟に対応することができた。しかし、去年と比べて削減できた事項はそれほど多くなかった。 ・2学期は作品展の準備や学校行事が続き事務的に煩雑な時期があった。	B	・何事も整理・合理化ありきでなく真に必要な行事が何かを検討してほしい。 ・行事の内容の変更等保護者がかかわるものは相談してもらいたかった。
A	・研修会は人権同和教育と絡めたものを含めて3回実施した。 ・職員は支援を要する児童を意欲した学級経営や指導にきちんと取り組んでいた。 ・個別的教育支援計画・指導計画を必要児童は作成し、ケース会議を行い、毎週情報共有を図った。	A	・特記事項なし